

川崎市役所

1 事業の名称

「かわさき健幸福寿プロジェクト」推進事業に係る調査事業

2 事業の目的

かわさき健幸福寿プロジェクトは、高齢者の自立支援に向けた質の高いケアを評価する仕組みの構築を目指し、平成26年度から開始されたプロジェクトである。現在、類似の取組を実施している自治体は幾つかあるが、本市のかわさき健幸福寿プロジェクトには次のような特徴があり、他の自治体は類例がなく、先駆的な取組を実施している。

- ①要介護度及びADL（日常生活動作）を用いた、わかりやすいアウトカム指標による成果の確認
 - ②指定介護サービス事業所すべてを対象としていること
 - ③チームケア（一人の高齢者を支える様々な介護保険事業所が1つのチーム）に対する評価の実施
- プロジェクトへの参加を契機に、介護保険法の基本的な理念である「自立支援」を推進するケアを実施し、その結果として要介護度等の改善・維持に積極的に取組んだ介護サービス事業所を評価することにより、事業所全体の行動変容による職員間の連携強化、意欲の向上、御利用者・御家族の要介護度等の改善・維持に対する意欲の向上などにより、介護サービスの質が向上していくことを目的としている。

3 実施方法

令和元年7月から令和2年6月まで実施された、第5期の取組期間（1年間）を振り返り、全参加事業者及び利用者、その家族向け調査を実施した。

- ・要介護度、日常生活動作（ADL）改善に向けた事業所の意識変化と具体的な行動の変化
- ・サービスを受ける利用者及びその家族の意識変化と具体的な行動の変化
- ・インセンティブの効果について
- ・成果指標の妥当性について
- ・要介護認定更新後の状況について

これらのことを調査の上、施策の改善等に向けた検証を行うもの。

プロジェクトへの参加により、事業所及び各職員がどのように意識や介護に対する考え方を変化させていったのかを測定し、介護サービス利用者を支える、必要なサービスの提供を行う事業所として生まれ変わる契機を掴んだかどうか、この調査をもって把握を行う。

4 事業内容及び実施状況

1年間のプロジェクト実施状況を踏まえ、受託業者からの助言や意見交換を踏まえながら川崎市が調査に必要な項目をアンケート形式で作成し、対象者あてに発送、回収（未着事業所に対する督促等も含め、市で対応）を行う。回収後に、受託業者宛て、アンケートを回送し、内容の確認、集計（単純及びクロス）及び、回答傾向から見て取れる事業の分析結果をまとめ、成果報告を受けるもの。

5 事業の効果

アンケートの実施に伴い、参加事業所及び参加者からの声を直接聞き取り、結果として統計的な数値から読み取れるもの、要望等フリーハンドでいただいた記述内容を総合、幅広く収集を実施した。

主なものとして、①取組参加による自事業所の意識の変化やその内容について、②御家族のプロジェクトに対する期待や不安感、③インセンティブが取組に与える影響等とする。

結果を受け、次期事業の進行に際し、事業周知や参加の継続についてより深く掘り下げ、魅力ある事業づくりに寄与する様々な意見の反映を行う予定である。

6 感想

新型コロナウイルスの影響もあり、参加事業所数が伸び悩みの状況になっているが、アンケートの結果において、「プロジェクトに参加したことによる事業所へのプラス面」が、5期連続「80%」があったなど、事業効果について介護事業所から生の声が聴取できることは事業を推進する上で、必要であると考えております。



Colors, Future!

いろいろって、未来。

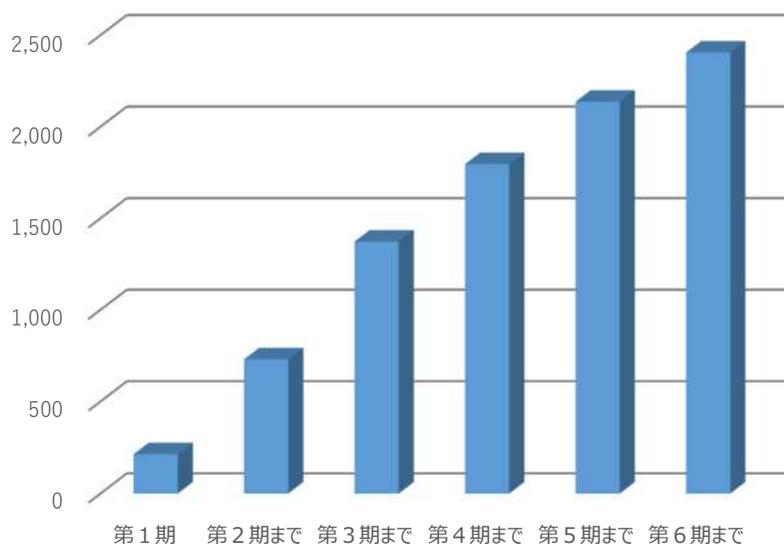
川崎市

かわさき健幸福寿プロジェクト これまでの取組み結果

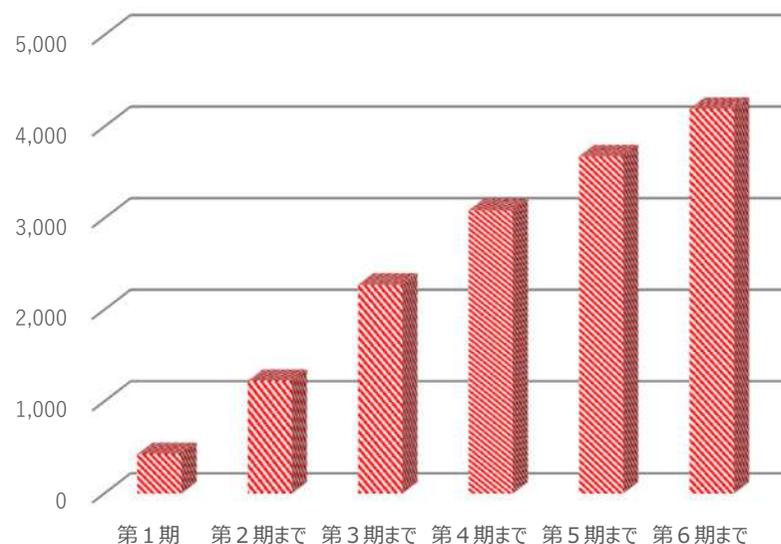
川崎市健康福祉局長寿社会部高齢者事業推進課

参加利用者数・参加事業所数

参加利用者数（累計）



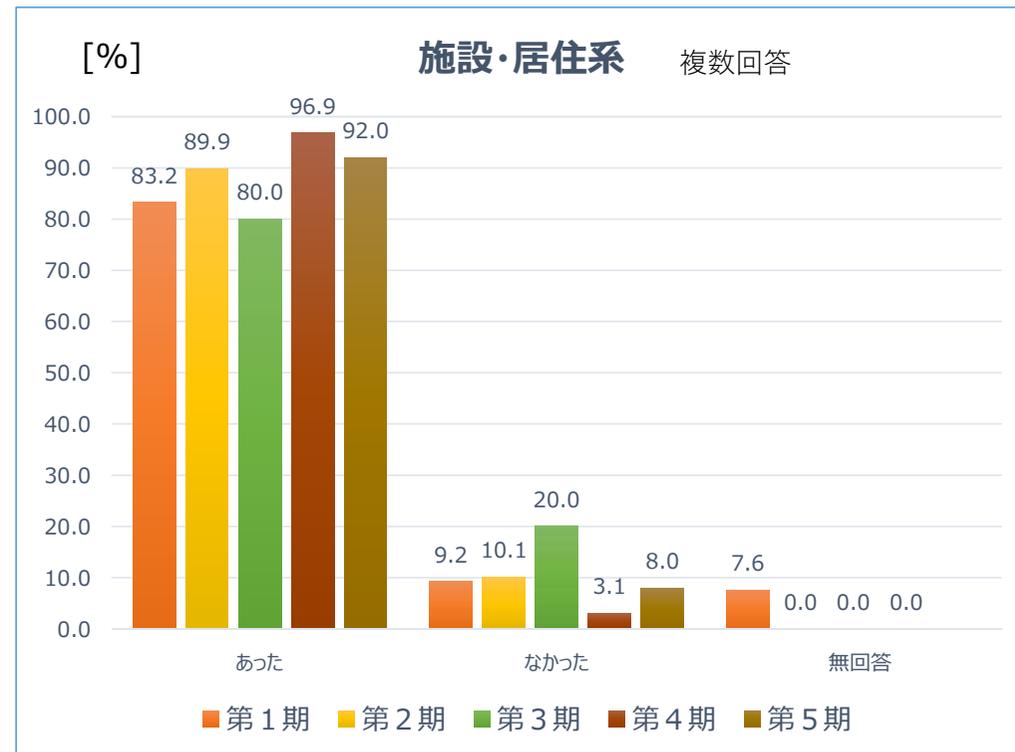
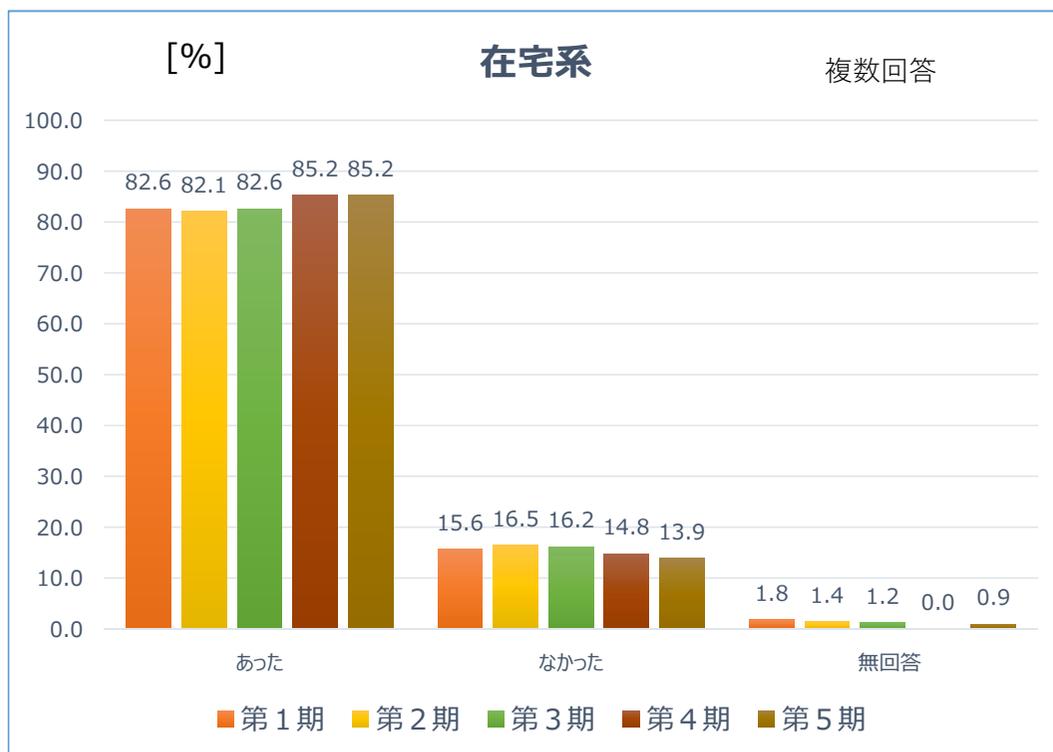
参加事業所数（累計）



平成28年7月から事業の本格実施をスタートし、第5期までに累計で約**2,400名**の介護サービス利用者、延べ**4,100事業所**にご参加いただいております。

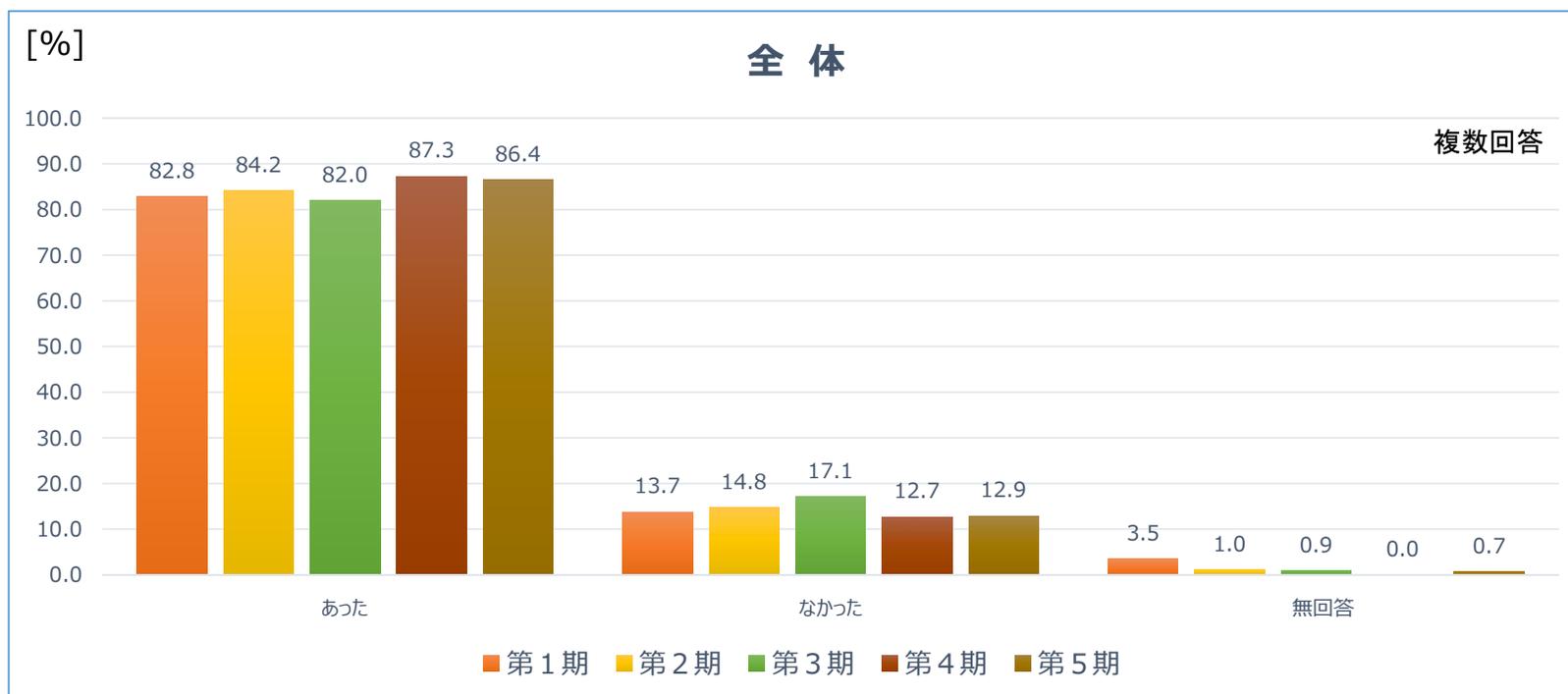
参加事業所からのアンケート

◆プロジェクトに参加したことによる事業所へのプラス面の影響



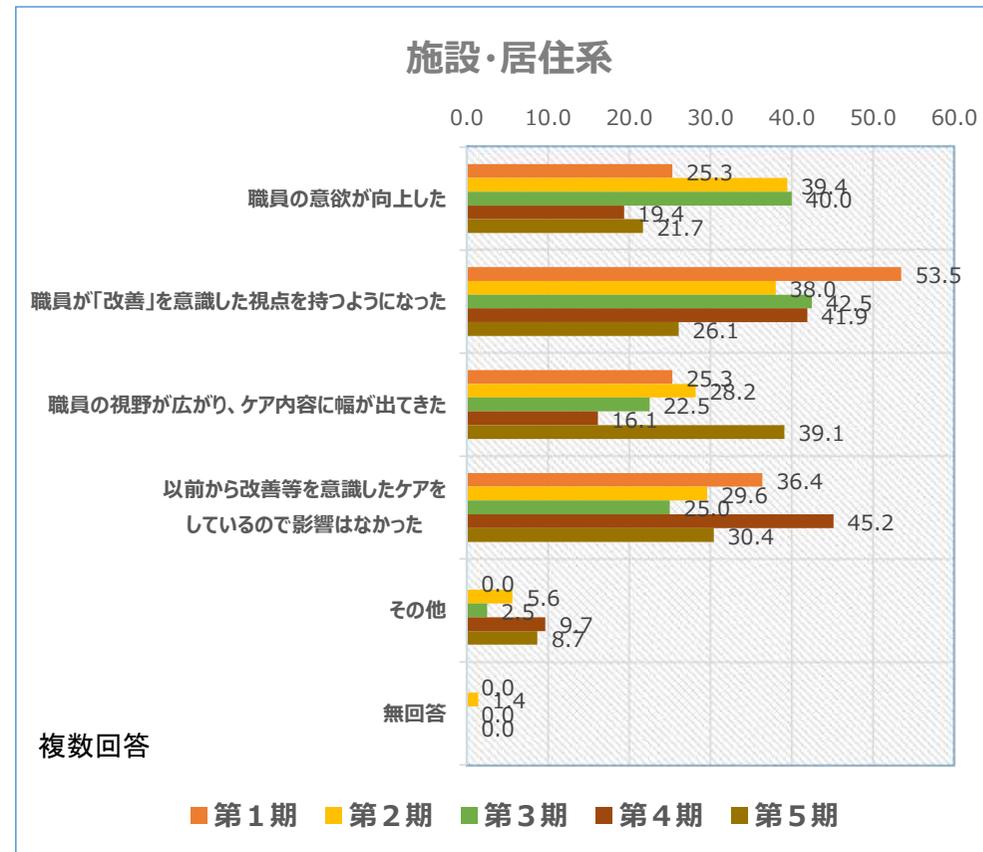
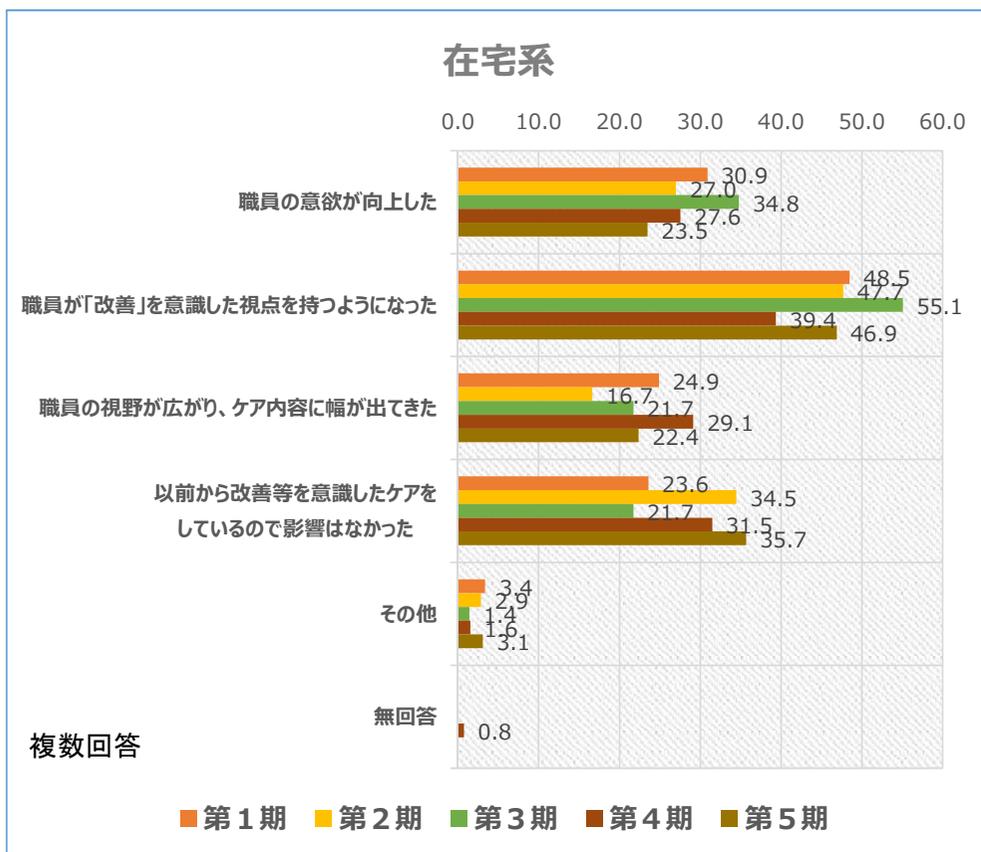
全期において、在宅系、施設・居住系ともに、80%を超える事業所からプロジェクトに参加したことによって何らかのプラス面の影響があったことを確認できた。

◆プロジェクトに参加したことによる事業所へのプラス面の影響



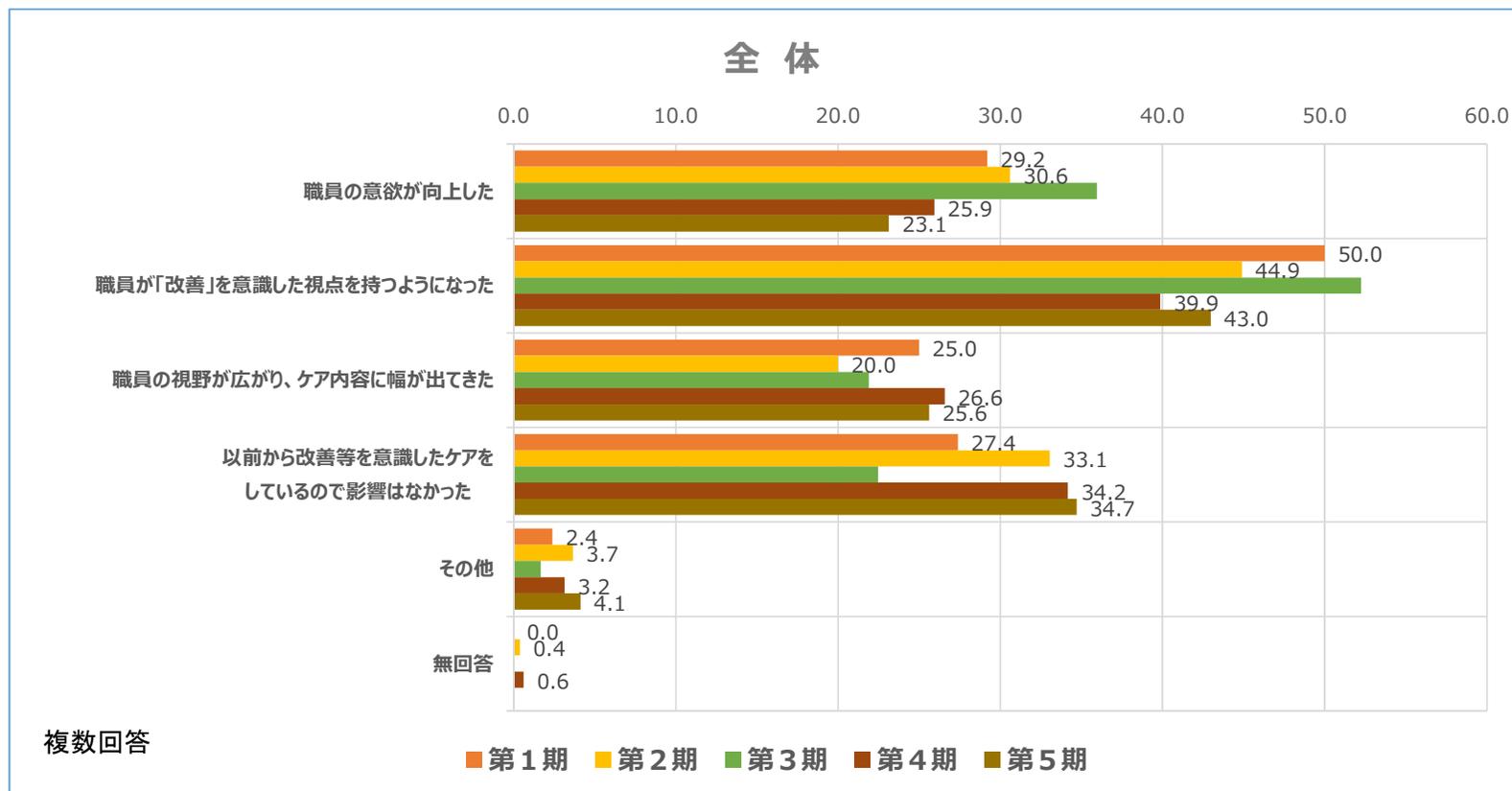
参加事業所全体についても、80%を超える事業所からプロジェクトに参加したことによって何らかのプラス面の影響があったことを確認できた。

◆プロジェクトに参加したことによる事業所へのプラス面の内容



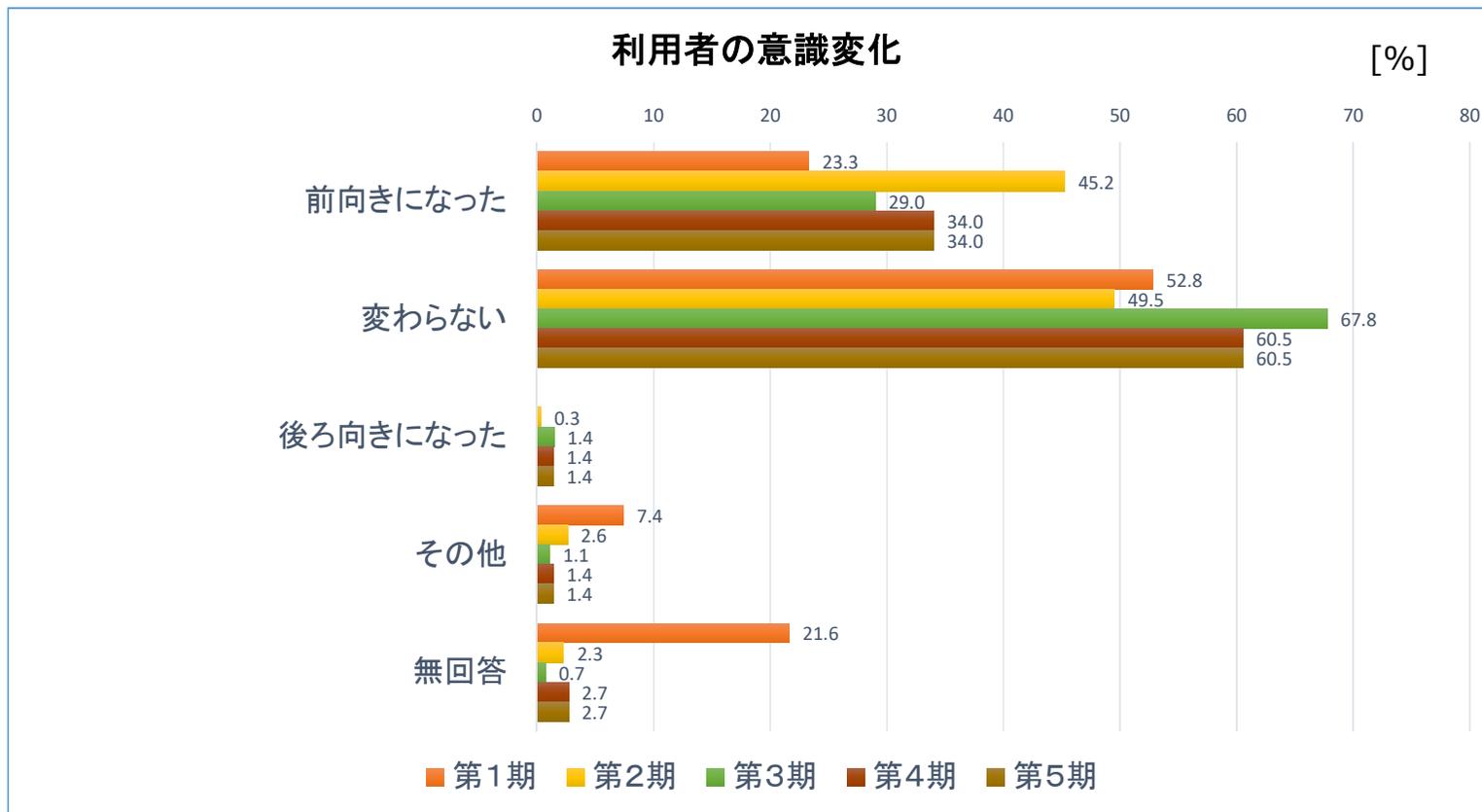
在宅系においては、「職員が改善を意識した視点を持つようになった」、施設・居住系においては、「職員の視野が広がり、ケア内容に幅が出てきた」など介護業務に関する回答が多い。

◆プロジェクトに参加したことによる事業所へのプラス面の内容



第3期以降において、意欲の向上よりも、「改善意識」や「職員の視野」の割合が高い。

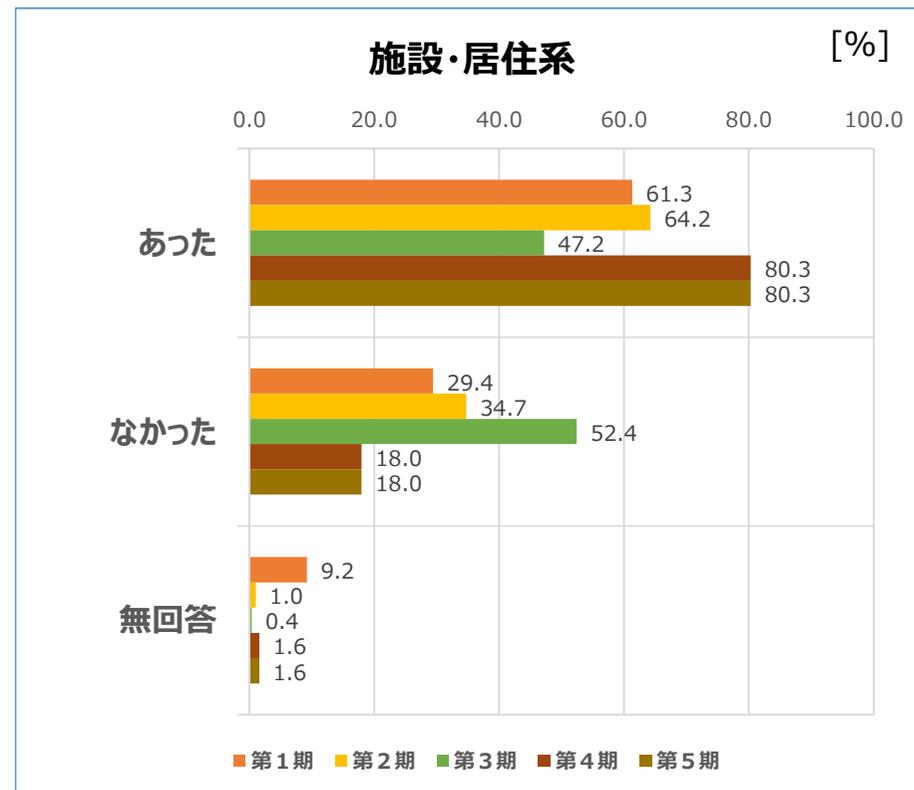
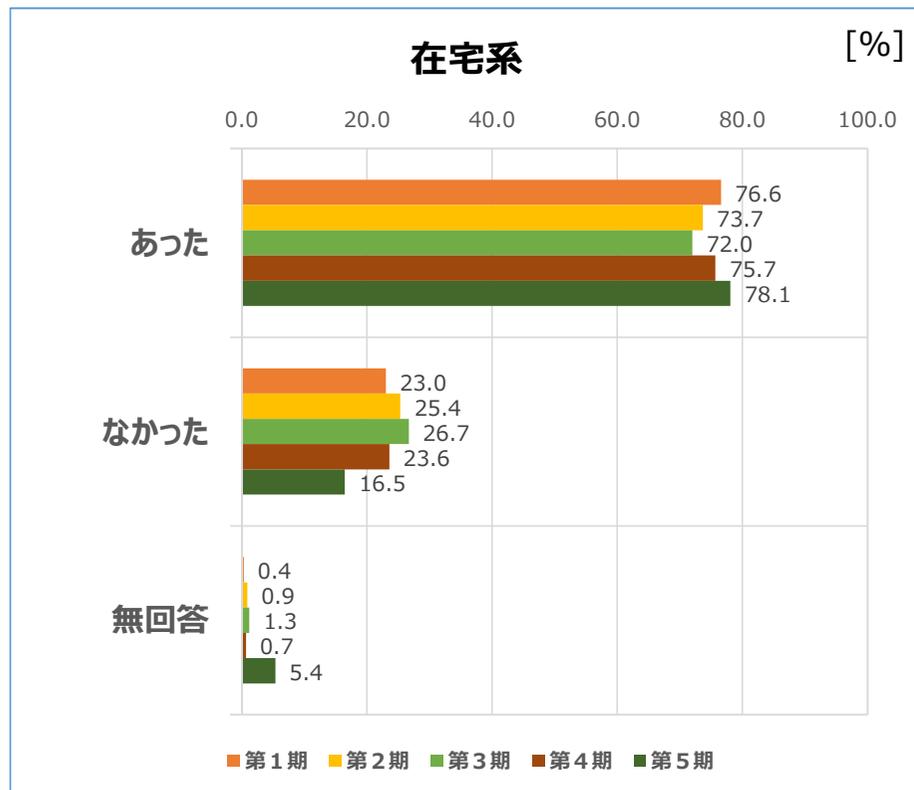
◆利用者の意識変化



プロジェクトに参加することで、気持ちが「前向きになった」利用者は全体の2割～4割であった。

参加者・ご家族に関するアンケート

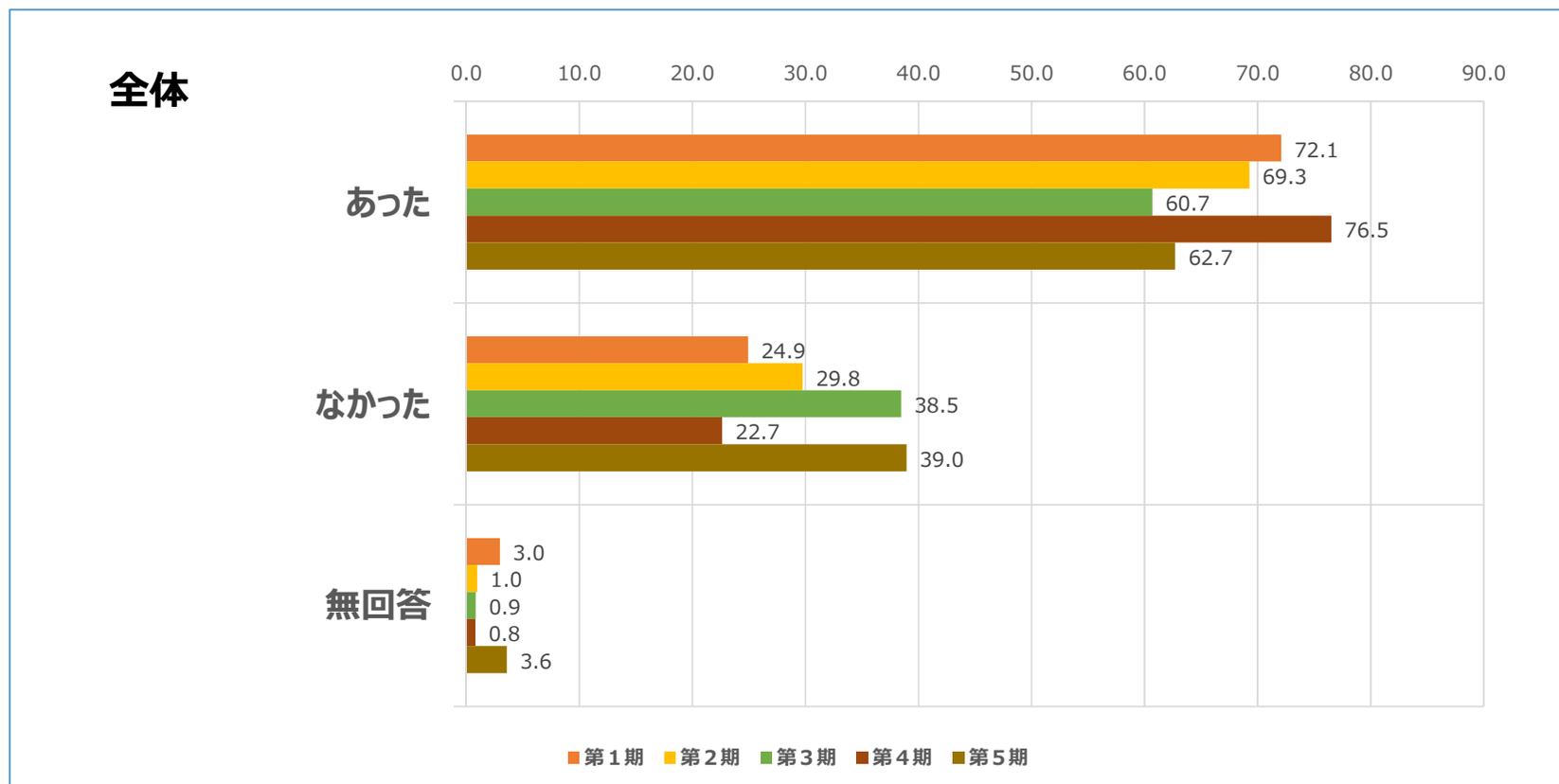
◆事業所から見た利用者・家族プラス面の有無



在宅系については、全期において70%以上の事業所が利用者・家族のプラス面の変化を感じている。
施設・居住系についても、5期平均で約60%の事業所がプラス面の変化を感じている。

参加者・ご家族に関するアンケート

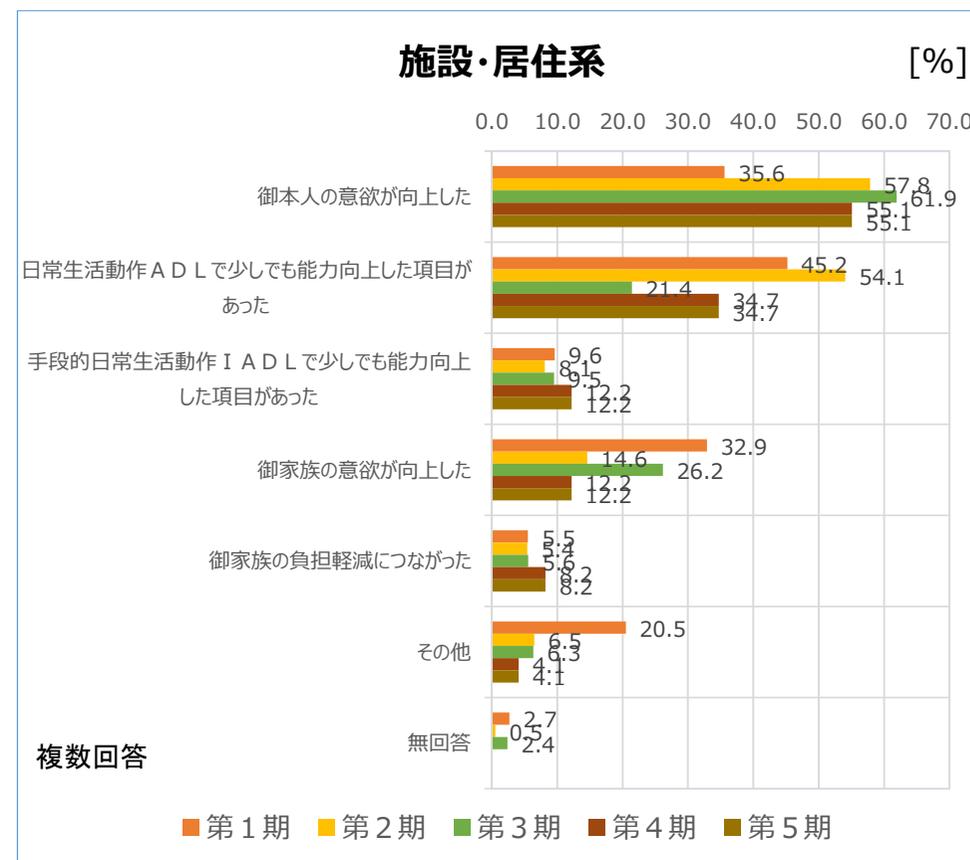
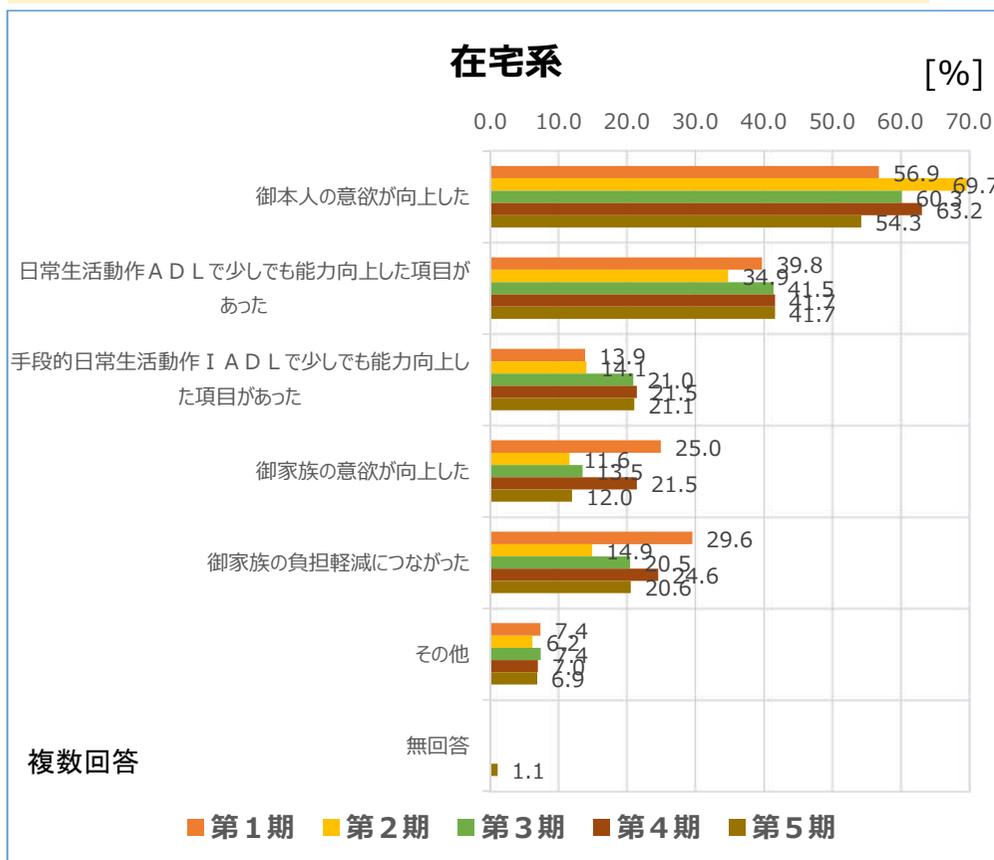
◆事業所から見た利用者・家族プラス面の有無



全体においても、全期において、60%以上の事業所が利用者・家族のプラス面の変化を感じている。

参加者・ご家族に関するアンケート

◆事業所から見た利用者・家族プラス面の内容



プラス面の内容について、在宅系については全期において平均約 60% の事業所がご本人の意欲が向上したと回答があった。施設・居住系についても、概ね 50% 余りの事業所がご本人の意欲が向上したと回答している。